

一般社団法人日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会
第 34 回 リサイクル燃料貯蔵分科会 (F4SC) 議事録

1. 日時 2016 年 1 月 26 日 (火) 13:30~17:00
2. 場所 原燃輸送 (株) 大会議室
3. 出席者 (順不同, 敬称略) (開始時)

(委員) 小田野, 木倉, 白井, 松本(務), 松岡, 大岩, 入江, 長田, 清水, 澤, 佐伯,
影山 (12名)

(欠席委員) 小佐古, 水谷, 須山 (3名)

(常時参加者) 石川(智), 樋口, 下条, 本田, 菱田, 広瀬, 野島 (7名)

(欠席常時参加者) 吉村, 蓬田, 大野, 堂守 (4名)

(常時参加者候補) 石川(竜)

(オブザーバー) 伊藤

4. 配付資料

- F4SC34-1 人事について (原子燃料サイクル専門部会)
- F4SC34-2 人事について (リサイクル燃料貯蔵分科会)
- F4SC34-3 第 33 回リサイクル燃料貯蔵分科会議事録 (案)
- F4SC34-4 標準委員会の活動状況
- F4SC34-5 原子燃料サイクル専門部会活動状況
- F4SC34-6 「使用済燃料中間貯蔵施設用金属キャスクの安全設計及び検査基準:2010」改定要否検討結果
- F4SC34-7 「使用済燃料中間貯蔵施設用コンクリートキャスク及びキャニスタ詰替装置の安全設計及び検査基準:2007」改定要否検討結果
- F4SC34-8 標準委員会・用語集の作成状況について (中間報告)
- F4SC34-9 輸送貯蔵兼用容器に関する IAEA の動き
- F4SC34-10 リサイクル燃料貯蔵分科会の検討課題の分類
- F4SC34-11 リサイクル燃料貯蔵分科会における作業会の設置
- F4SC34-12 リサイクル燃料貯蔵分科会, 幹事会及び作業会の検討スケジュール

参考資料

F4SC34-参考 1 第 17 回技術情報検討会議事概要

F4SC34-参考 2 標準委員会 専門部会運営通則/標準委員会 運営内規

5. 議事

幹事により出席者の確認が行われ、決議に必要な委員数を満足している旨の報告があった。

(1) 人事について

- 前回の分科会で選任決議及び承認された人事については、前回の標準委員会に F4SC34-1 の通り提案され、承認及び確認されたことが報告された。
- 追加の分科会の人事として、常時参加者の登録解除及び登録について F4SC34-2 の通り提案され、承認された。

(2) 前回議事録確認

- 前回議事録（案）として F4SC34-3 の確認が行われ、議事の部分に資料番号を読み込む編集上の修正を行うことで、承認された。

(3) 標準委員会、専門部会の活動状況について

- 幹事より、標準委員会及び原子燃料サイクル専門部会の活動状況について F4SC34-4, F4SC34-5 に沿って報告が行われた。

(4) 標準委員会、専門部会への標準改定要否の報告結果について

- 幹事より、前回の標準委員会及び原子燃料サイクル専門部会において F4SC34-6、F4SC34-7 の通り標準改定要否検討結果について提案し、承認されたことが報告された。

(5) 標準委員会・用語集の作成状況について

- 木倉副主査より、標準活動基本戦略タスクでの用語集の作成状況について F4SC34-8 に沿って報告が行われた。
- 議論における主なコメントは以下の通り。
 - ・ 用語で法令に記載のあるものは、法令に整合させる方向で議論がなされている。
 - ・ 本分科会でも用語集の状況は継続的に注視していく必要がある。
- 用語・略語の整理表について気づきがあれば、幹事まで連絡することとなった。

(6) 輸送貯蔵兼用容器に関する IAEA の動き

- 原燃輸送より、IAEA での輸送貯蔵兼用容器に関連した動向について F4SC34-9 に沿って報告が行われた。
- 議論における主なコメントは以下の通り。

- ・ 経年変化管理プログラムについては、IAEA の TEC-DOC “Methodology for a Safety Case of a Dual Purpose Cask for Storage and Transport of spent fuel” に具体的な記載があり、また、EPRI は標準を発行しているので参考にすべき。
- ・ IAEA では各国が経年変化に関する長期のデータを持ち寄り、整理する共同研究プログラムが進行している。
- ・ IAEA の動向を考慮すると、経年変化やギャップ分析プログラムとしてどのようなものを準備すべきかとの観点で標準を作成していくこと、及び経年変化に関連するデータをより充実していくことが必要になるのではないか。

(7) 標準改定案の検討

- 幹事会より、検討課題の分類、作業会の設置及び検討スケジュールについて F4SC34-10、F4SC34-11 及び F4SC34-12 の通り提案され、また、作業会及び幹事会の位置付けについて F4SC34-参考 2 に沿った補足説明が行われた。
- 議論における主なコメントは以下の通り。
 - ・ 金属キャスクの供用期間中検査については、日本機械学会も本学会側の動きを注視しており、特段の動きがあるわけではない。
 - ・ 標準が対象とする施設は発電所とは異なるものの、改定案の検討に当たっては、福島事故の反映との視点も持った方が良いのではないか。
 - ・ 現行の標準は健全燃料のみを対象としているが、今後とも健全燃料のみを対象とするのか、破損燃料も含めるかについては、中・長期的課題として検討した方が良い。
 - ・ 中・長期的課題の検討では、課題の状況に応じて作業会が適切にその技術範囲をカバーできるように、作業会の構成を検討した方が良い。
 - ・ 検討課題の分類については、改定に対する要求事項や課題の洗い出しのプロセス等も明確にした上で、その結果として示し、議論できるようにした方が良い。
 - ・ 標準改定案の検討スケジュールは、実際の進捗状況を踏まえ適宜見直していくべき。
 - ・ 作業会 1 と作業会 2 は同じ金属キャスクの標準に係るものであり、作業会の間で情報交換できるようにすべき。
- 議論の結果、作業会 1（金属キャスク 短期的課題）は松本委員、作業会 2（金属キャスク 中・長期的課題）は松岡委員、作業会 3（コンクリートキャスク 全般）は大岩委員を準備のための纏め役として、上記コメントも踏まえ、それぞれの作業会の活動内容・計画を検討し、提案することとなった。
- 各出席者は参画したい作業会があれば、2/2 までに各作業会の纏め役及び幹事にそ

の旨を連絡することとなった。

(8) その他

- 幹事会より、使用済燃料貯蔵設備の臨界安全評価に関連した動向について F4SC34-参考 1 に沿って報告が行われた。

(9) 今後のスケジュール

- 次回分科会は 2016 年 3 月 24 日（木）13:30 から原燃輸送で行うこととした。

以上